

「戦場のDX」：ウクライナが示すロボット化戦争の最前線

国防とDXの融合：フェドロフ体制下の変革

国防とDX業界の「一体化」

30代の元DX大臣が国防大臣に就任したことで、IT業界と国防当品が同じコミュニティとして機能し、迅速な意思決定と実装を可能にしている

の实用主義が生んだ「消耗品」としてのロボット
見た目よりも「安く、早く、大量に」生産することを重視。
分散された稼働工場生産され、戦場で使い潰すことを前提とした設計

現場を変えるロボットたちの任務



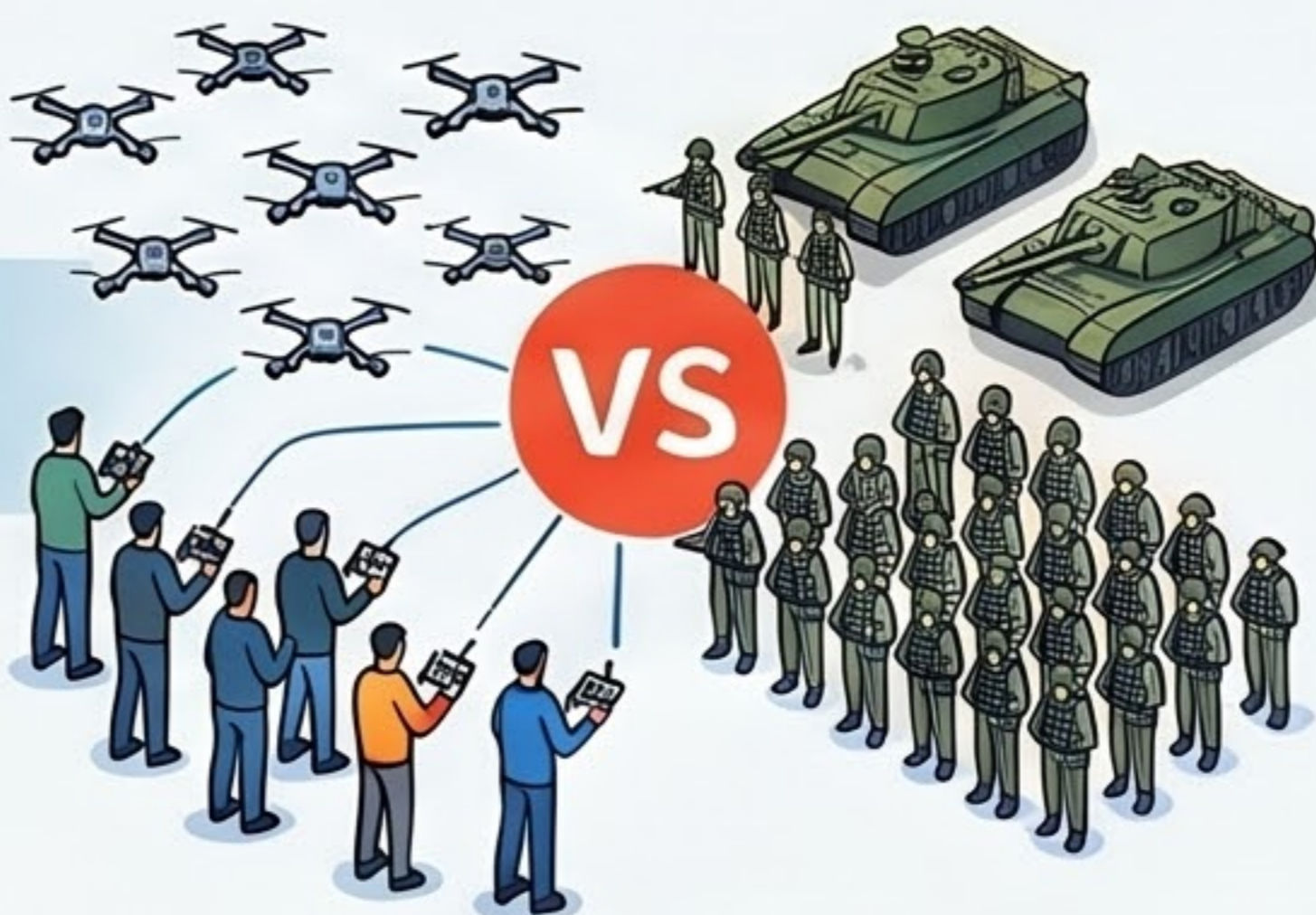
危険な「第一線任務」の代替

兵士が最も命を落としやすい地雷敷設や、最射程からの負傷兵の輸送をロボットが担うことで、人的被害を抑制している



特殊任務：プーチンラップ対策の遺体回収

敵の遺体には仕掛けられた雷を回避し、重要な情報（地雷等）を安全に回収するための専用ロボットも運用されている



ドローン10人で2個大隊を「全滅」

演習において、わずか10人のドローンオペレーターが、従来の連隊規模に相当する戦力を無力化させる衝撃的な結果が出ている

社会のDX：戦時下でも止まらない行政



万能型国民アプリの普及

市役所が掲載しない戦地付近でも、結婚・帰省・起業・確定申告まで、すべての行政サービスがスマートフォン一つで完結する



「戦時下の日常」を守る効率性

DXによる行政の効率化が、安全な地域にいたる市民の利便性を高めるだけでなく、国家全体のレジリエンス（復旧力）を支えている

日本と世界への警鐘



変化する海戦のルール

海軍艦隊を侮らないウクライナが、水上ドローンとミサイルだけでロシアの黒海艦隊を殲滅し、旗艦を撃沈。艦隊の運用の境界を露呈させた



中朝へのデータ流出と「学び」の遅れ

北朝鮮は既にドローンまるめれの戦術を学び取っており、日本もウクライナとの協力的なチャンネル構築と実戦的な演習体験が急務